

野菜の需給・価格動向レポート(平成29年8月21日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	7月の価格情報				8月の価格情報		8月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の9月上旬までの見通し
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額	8月上旬			
		中旬	下旬						
葉茎菜類	キャベツ	74.19	57	55	74.19	58	・13,406t (108%)	群馬(79)	<p>群馬産は、曇天が続いており、生育への影響が懸念されるものの、8月中旬現在、生育は順調で品質もおおむね良好であることから、現在平年並みの出荷は、引き続き平年並みの出荷の見込み。 群馬産の出荷は平年並みと見込まれることから、現在、盆需要による引き合いの強まりで平均を上回っている価格は、今後は平均並みに推移する見込み。</p>
		88.91	56	57	88.91	60	・5,056t (103%)	群馬(78), 長野(21)	
	たまねぎ	93.34	84	77	93.34	80	・4,359t (155%)	北海道(58), 兵庫(21), 中国(14)	<p>北海道産は、早生品種の作付けが増え、生育も概ね順調であることから、引き続き平年並の出荷の見込み。 兵庫産は、定植遅れ等により貯蔵残が多いことから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年並みと見込まれるものの、兵庫産の出荷が平年より多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。</p>
		93.34	79	72	93.34	80	・2,303t (126%)	兵庫(56), 北海道(38)	
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	287.00	329	291	287.00	289	・1,910t (104%)	茨城(32), 青森(19), 秋田(15)	<p>茨城産は、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。青森産は、7月末ごろは曇天及び低温による生育遅れから出荷が少なめだったものの、現在は生育が順調であることから、天候次第ではあるものの引き続き平年並みの出荷の見込み。秋田産は、生育は順調で品質も安定していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。</p>
		487.13	234	264	487.13	317	・226t (109%)	徳島(23), 香川(22), 奈良(14), 三重(14)	
	はくさい	58.82	53	59	58.82	58	・3,797t (123%)	長野(95)	<p>長野産は、主産地である高冷地の生育が概ね順調なものの、8月中旬は曇天で生育が進まず、降雨で収穫も進まないことから、現在やや多めの出荷は、今後は平年並みになる見込み。 長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、平均に近づくものの、引き続き平均を下回って推移する見込み。</p>
		62.79	51	55	62.79	56	・2,267t (116%)	長野(100)	
	ほうれんそう	583.95	609	605	583.95	781	・377t (92%)	群馬(31), 栃木(25), 茨城(17)	<p>群馬産は、曇天の影響から、8月に入ってやや少なめの出荷となっているものの、生育は概ね順調で、8月末にかけて、平年並みの出荷に回復する見込み。栃木産は、8月上旬の降雨で水分過多等による品質低下及び曇天の影響から、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、曇天により品質にばらつきが見られるものの、大きな劣化等はないことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。</p>
		670.86	667	654	670.86	761	・166t (73%)	岐阜(82), 北海道(9)	
	レタス(結球)	120.13	90	90	158.27	95	・5,902t (102%)	長野(83)	<p>長野産は、生育は概ね順調なものの、8月下旬には気温低下に伴い、現在多めの出荷は、今後やや多めの出荷に落ち着く見込み。 長野産の出荷が、やや多めと見込まれるが、相場が強含みで推移すると見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、平均に近づくものの、引き続き平均を下回って推移する見込み。</p>
		125.61	98	98	152.57	97	・2,038t (113%)	長野(98)	
果菜類	きゅうり	221.22	245	224	221.22	225	・4,483t (88%)	福島(42), 岩手(21), 秋田(14)	<p>福島産は、曇雨天による生育遅れが発生していること等から、現在平年よりやや少なめの出荷は、今後は少なめの出荷の見込み。岩手産は、低温により遅れていた生育は回復し、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。秋田産は、適度な降雨により生育は順調で品質もおおむね良好であることから、引き続き平年並の出荷の見込み。 岩手産及び秋田産の出荷が平年並みと見込まれるものの、福島産の出荷が8月の曇雨天の影響で少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		232.80	231	202	232.80	210	・1,408t (95%)	福島(38), 北海道(23), 愛媛(20)	
	トマト(大玉)	252.46	239	226	252.46	246	・4,705t (79%)	青森(21), 福島(17), 北海道(16), 群馬(12)	<p>青森産は、最近の低温により小玉傾向のものが散見されるものの、影響は軽微なことから、引き続き平年並みの見込み。福島産は、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、生育は順調で品質も良好であることから、引き続き平年並の出荷の見込み。群馬産は、曇天により着色遅れがみられるものの、影響は軽微であり、生育はおおむね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 青森産、福島産、北海道産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。</p>
		298.46	250	250	298.46	258	・2,042t (85%)	北海道(36), 岐阜(31), 岡山(10)	
	なす	230.51	276	257	230.51	282	・2,687t (88%)	群馬(31), 栃木(29), 茨城(23)	<p>群馬産は、曇天による生育及び着色遅れから、引き続き少なめの出荷の見込み。栃木産は、生育は概ね順調なものの、曇天の影響で着色に影響が出ており、今後は天候次第であるが引き続き平年並みの見込み。茨城産は、生育は順調で品質も良好なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 群馬産の出荷が少なめと見込まれ、栃木産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		232.81	242	260	232.81	263	・992t (88%)	山梨(31), 徳島(20), 大阪(8), 奈良(8)	
ピーマン	276.65	354	361	263.58	320	・1,186t (118%)	岩手(54), 茨城(18)	<p>岩手産は、8月の曇天の影響により、一部地域で生育遅れが懸念されるものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、秋作(抑制作)を含めて生育は順調で、品質も問題ないことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 岩手産及び茨城産は、現在の出荷状況が続くと見込まれることから、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>	
	293.32	279	286	296.27	279	・514t (119%)	青森(30), 兵庫(17), 北海道(9)		
根菜類	だいこん	94.60	72	72	94.60	79	・4,043t (112%)	北海道(60), 青森(35)	<p>北海道産は、8月に入って高温による生育障害が散見されるものの、生育は概ね順調であり、今後は天候次第であるが、引き続き平年並みの出荷の見込み。青森産は、気温低下の影響により、出荷はやや少なめとなっているものの、生育は順調で、肥大も概ね良好であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷が引き続き平年並みと見込まれ、青森産の出荷が平年並みに回復と見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。</p>
		95.37	67	65	95.37	76	・1,528t (102%)	北海道(73), 青森(13), 岐阜(12)	
	にんじん	133.01	91	85	123.08	60	・4,508t (131%)	北海道(87)	<p>北海道産は、道内主産地の生育は順調で、遅れていた一部産地の出荷も回復していることから、引き続き多めの出荷の見込み。 北海道産の出荷が多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。</p>
		132.62	92	80	123.11	54	・1,560t (102%)	北海道(93)	

注: 1 平均価格は、過去6カ年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び青の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が変動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	7月の価格情報			8月の価格情報		8月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の9月上旬までの見通し		
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	下旬	中旬	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格				指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	
いも類	さといも	361.20	411	334	254.79	476 (187%)	・96t (93%)	千葉(62)、宮崎(27)	→	千葉産は、干ばつ気味で、小玉傾向となっていることから、引き続きやや少なめの出荷の見込み。宮崎産は、台風等による大雨の影響により疫病の発生がみられるものの、影響は軽微であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 千葉産の出荷がやや少なめと見込まれ、宮崎産は平年並みと見込まれることから、盆需要で上昇した価格は、今後は平均並みに近づくとともに、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		347.90	435	318	220.11	367 (167%)	・14t (43%)			
いも類	ばれいしょ	111.77	139	115	111.77	111 (99%)	・2,248t (123%)	北海道(80)	→	北海道産は、一部産地で気温高等で小玉傾向となっているものの、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みに推移する見込み。
		111.77	151	111	111.77	100 (90%)	・1,037t (101%)	北海道(72)、青森(21)		

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	7月の価格情報			8月の価格情報		8月上旬の東京都及び大阪市場の入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の9月上旬までの見通し		
	(参考)過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格	下旬	中旬	(参考)過去5カ年平均価格				東京都・大阪市場の旬別価格	
洋菜類	ブロッコリー	371.41	315	371	386.86	436 (113%)	・425t (119%)	北海道(71)	→	北海道産は、一部産地で気温高による病害の発生もあり、現在の出荷量は平年よりやや少なめとなっているものの、各産地とも生育は順調で、今後は平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年並みと見込まれるものの、需要は堅調なことから、7月下旬以降は基調となっている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		390.83	342	407	404.47	440 (109%)	・169t (148%)	北海道(55)、長野(18)		
洋菜類	アスパラガス	1008.81	950	879	787.86	838 (106%)	・217t (99%)	栃木(23)、福島(16)、佐賀(15)、長崎(14)	→	栃木産は、8月下旬に夏芽の出荷がピークを迎える中、気温高により細物がやや多くなっているものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。福島産は、病害虫の発生は見られるものの、影響は軽微であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。佐賀産は、高温の影響や生育期の天候不順により全体的に草勢が弱いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。長崎産は、生育期の天候不順の影響から、引き続き少なめの出荷の見込み。 佐賀産及び長崎産の出荷が平年より少なめと見込まれるものの、栃木産及び福島産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、平均に近づくとともに、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		991.74	886	888	831.65	843 (101%)	・66t (104%)	佐賀(23)、福岡(14)、長崎(14)、タイ(11)、熊本(10)		
果菜類	かぼちゃ	212.02	243	230	175.73	255 (145%)	・967t (100%)	北海道(59)、茨城(10)	→	北海道産は、生育は概ね順調で大玉中心となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、若干の遅れがみられるものの、大玉傾向となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産及び茨城産は、現在の出荷状況が続くと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		152.57	198	172	157.90	198 (125%)	・426t (113%)	北海道(38)、石川(22)、NZ(14)		

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成24～28年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。

2 トピック - こまつなの需給動向について -

今回は、近年生産量が年々増加し、栄養価も高い「こまつな」を紹介する。
こまつなは、江戸時代から庶民に親しまれてきた野菜で、寒暖に強い野菜であり、特に野菜の不足する冬場には重宝されていたことから、地域によっては雑煮などの料理に欠かせないものとなっている。

原産地と日本への渡来
こまつなは、原産地は日本であるが、中国から渡来した「かぶ」が祖先といわれている。名前の由来は江戸時代、小松川地域(東京都江戸川区)に八代将軍徳川吉宗が鷹狩りして訪れた際に食べた雑煮の中に香りのよい野菜が入っており、その地名をとって「こまつな」と命名されたという説が代表的である。

こまつなとその仲間たち
こまつなに近い葉菜類には様々な種類があり、新潟県の女池菜(めいけな)や大崎菜(おおさきな)、福島の信夫菜(しのぶな)、関西の畑菜(はたけな)や大和真菜(やまとまな)など、地方品種も多い。

生産状況
農林水産省の「野菜生産出荷統計」によると、作付面積は平成18年の5650ヘクタールから平成27年は6860ヘクタールと年々増加しており、出荷量も平成18年の7万4800トンから平成27年は10万2000トンと増加している(図1)。
平成27年の都道府県別出荷量は1位の埼玉県が1万4000トン、全国の14%を占めており、次いで茨城県が約1万1000トン(同11%)、福岡県が約9000トン(同10%)、東京都が約8000トンとなっている。続いて群馬、神奈川、千葉と続き関東地方からの出荷が全国の半数以上を占めている(図2)。
東京都中央卸売市場における28年の入荷状況は、年間を通して毎月1000～1300トン程度と安定的な入荷となっている(図3)。

栄養と効用
緑黄色野菜の中でも栄養価が高く、ビタミンとミネラルを豊富に含む。ビタミンKは、こまつな100g当たりの含有量が1日の摂取目安量の3倍も含まれている。ビタミンKには止血作用があるほか、カルシウムが骨に沈着するのに必要なたんぱく質を活性化させる働きがあるので、骨の形成に役立つ。また、体内でビタミンAに変わるカロテンやビタミンCも豊富に含まれている。カロテンやビタミンCはともに強い抗酸化作用があるため、動脈硬化を抑制したり、がんを予防したりする効果が期待できるといわれている。

図1 こまつなの作付面積と出荷量

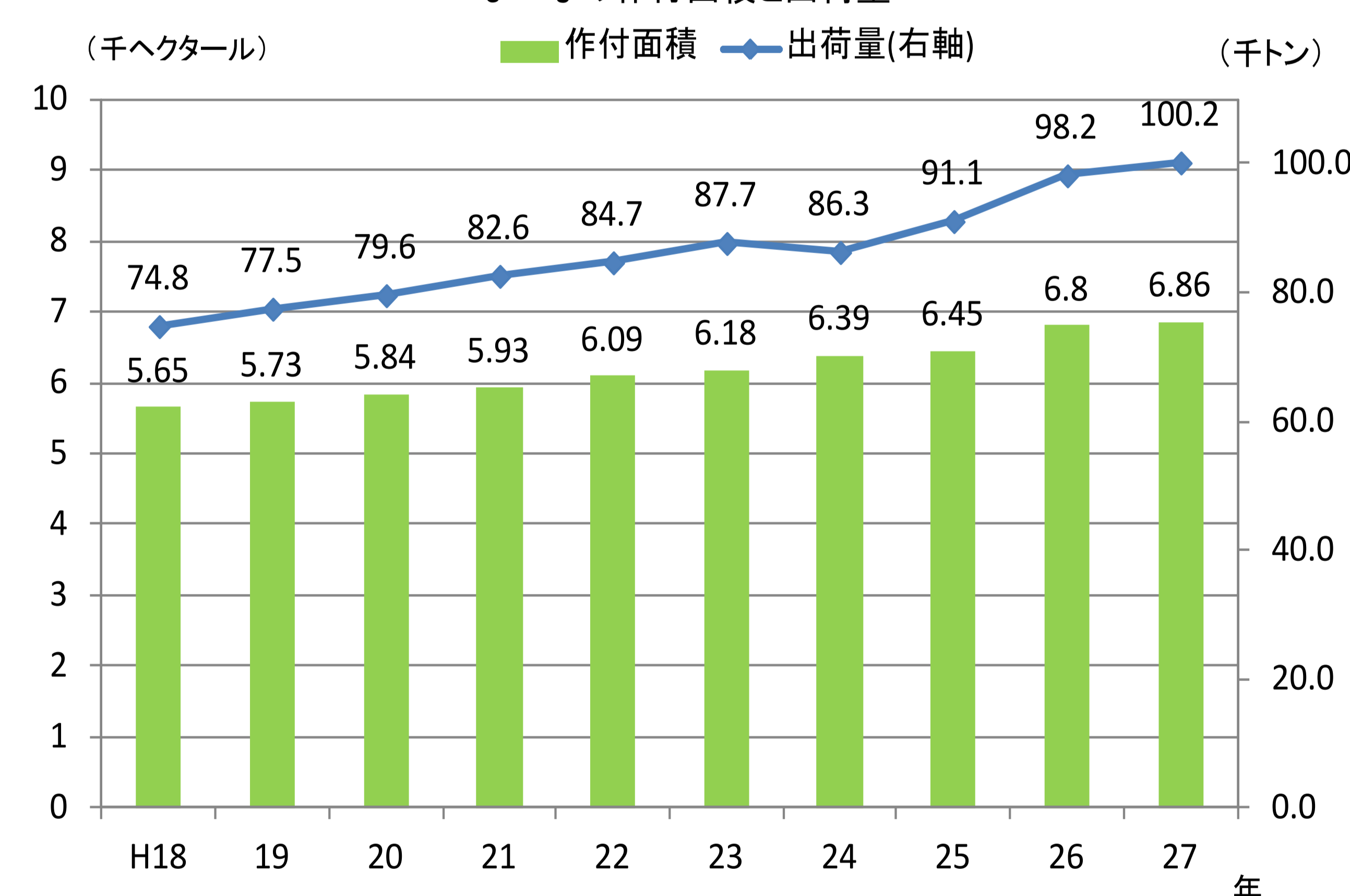


図2 こまつなの産地別出荷量(平成27年)

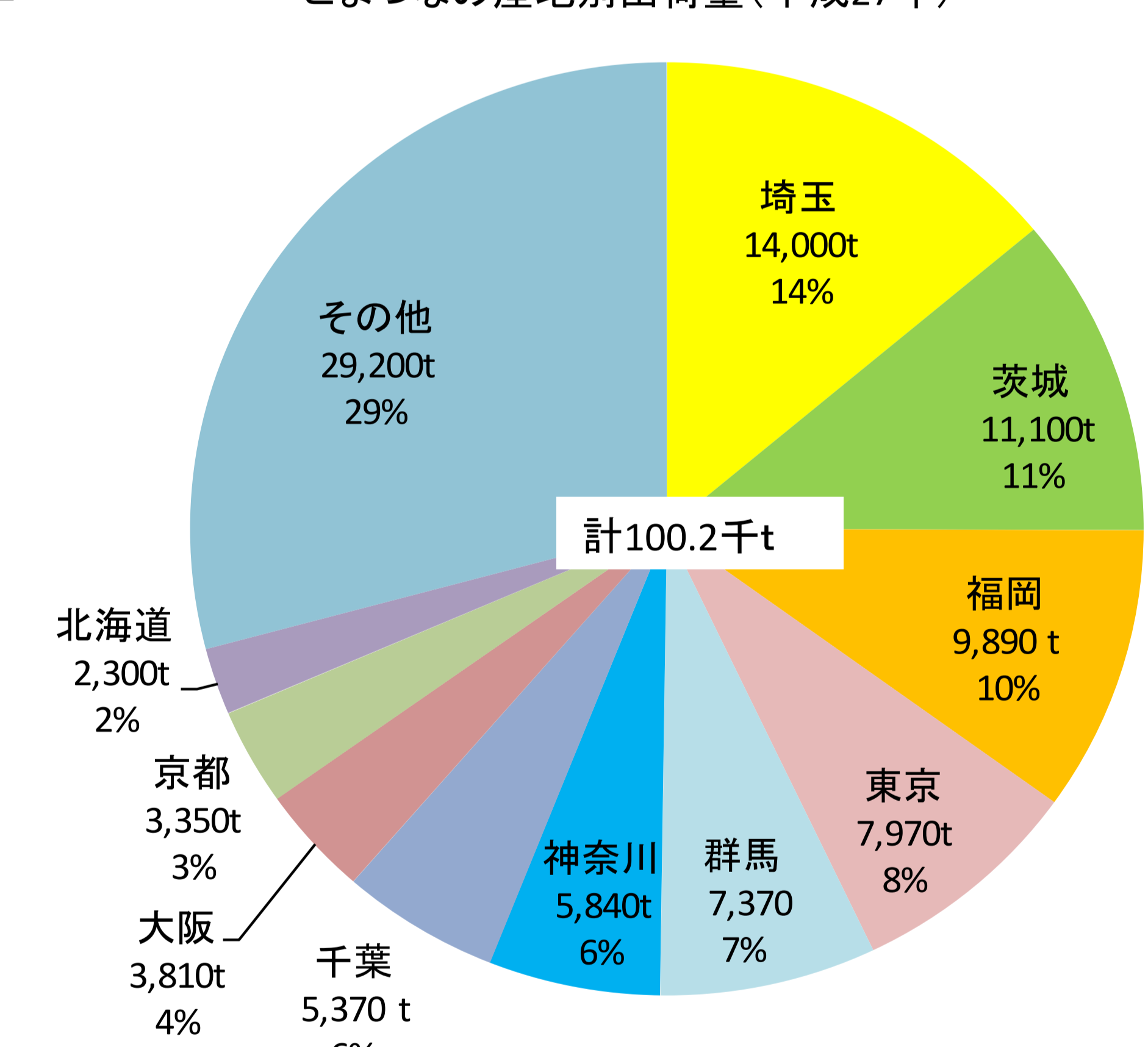
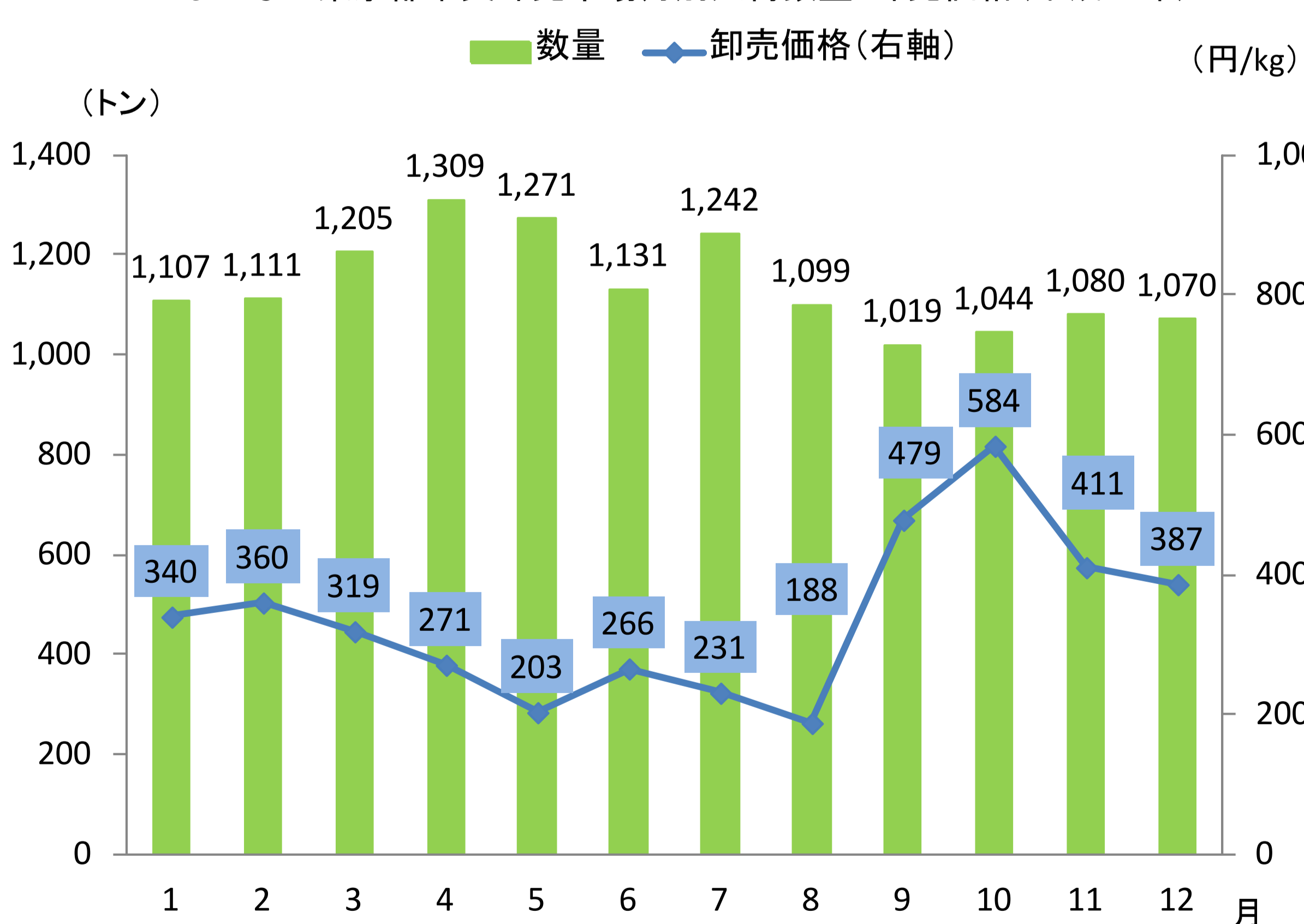


図3 こまつなの東京都中央卸売市場月別入荷数量・卸売価格(平成28年)



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：図1 図2 農林水産省「野菜生産出荷統計」 図3 東京都中央卸売市場「市場統計情報 月報」 図4 農林水産省植物防疫所「植物防疫統計」)

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 安藤、松岡、植村 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。
※無断転載禁止 ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。